

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	令和5年度予算（当初）	
水産試験場運営費	50,585	千円
試験研究調査費	26,427	千円
（養殖場防疫・疾病対策事業）	（5,305）	
（水産資源評価モニタリング）	（3,332）	
（アユ資源・漁獲情報発信高度化研究）	（2,272）	
（魚類等増殖環境評価調査研究）	（715）	
（外来魚駆除対策研究）	（4,945）	
（湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究）	（726）	
（淡水真珠母貝の生産安定化研究）	（1,371）	
（「滋賀の水産業強靱化プラン」推進研究）	（3,525）	
（増養殖技術研究）	（924）	
（漁況予報調査研究）	（1,934）	
（漁場環境調査研究）	（1,378）	
調査指導費	1,510	千円
（特産マス類を用いた河川利用の高度化と優良種苗化研究）	（1,510）	
職員費	230,234	千円
計	308,756	千円

水産課計上分

事業名	令和5年度予算（当初）	
水産基盤整備事業費	3,845	千円
（ヨシ帯造成・砂地造成事務費）	（1,732）	
（セタシジミ種苗放流事業）	（2,113）	
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費	1,573	千円
（効果調査）	（1,573）	
多様で豊かな湖づくり推進事業費	5,524	千円
（ニゴロブナ再生産回復調査研究）	（1,872）	
（セタシジミ資源回復対策の検討）	（1,072）	
（セタシジミ資源の持続的管理に関する総合的研究）	（2,580）	
計	10,942	千円

令和5年度主要事業一覧

事業名	事業概要
養殖場防疫・疾病対策事業	アユの養殖や河川放流で問題となっている疾病対策研究およびこれらの感染症の保菌検査を行う。 ○冷水病ワクチンの開発研究 ○ワクチン実用化研究
水産資源評価モニタリング	水産資源のモニタリングを行うとともに、琵琶湖の環境変化による水産資源へ影響を把握する。 ○水産資源の評価手法の確立と資源モニタリング ○湖底の貧酸素化の実態調査 ○ホンモロコ繁殖動態研究
アユ資源・漁獲情報発信高度化研究	アユの初期加入状況が漁獲に及ぼす影響解明と科学計量魚探等を用いた精度の高い資源・漁獲動向予測技術を開発し、人工河川を

	用いた増殖対策と効果的な資源管理に活用する。 ○親魚確保のための資源管理手法の検討 ○科学計量魚探を用いた資源・漁獲動向予測と地域別早期漁況予測手法の開発、発育段階ごとの餌環境および分布の把握
魚類等増殖環境評価調査研究	内湖や周辺の残存水面において魚類等の増殖環境の評価を行うとともに、これらの環境で顕在化しつつある異変状況の発生メカニズムなどについて明らかにする。 ○西の湖等漁場環境動向のモニタリング ○琵琶湖北湖におけるアユ等の着臭メカニズムの解明
外来魚駆除対策研究	外来魚生息量推定精度の向上と駆除量減少要因の解明に取り組むとともに、駆除量を増大させるための効率的な駆除技術の開発を行う。また、分布域を拡大しているチャネルキャットフィッシュの現状把握と効率的駆除技術の開発を行う。 ○外来魚の駆除量増大技術開発研究 ○特定外来生物チャネルキャットフィッシュ拡散防止対策研究
湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究	北湖漁場における湖底耕耘による栄養塩回帰効果の把握と生産力向上効果を検証する。
淡水真珠母貝の生産安定化研究	淡水真珠母貝の安定生産技術の開発等に取り組む。 ○養殖ナマズを用いた採苗技術および脱離から沖出しまでの母貝生産技術の開発、真珠漁場のモニタリング ○在来イケチョウガイの育成技術開発および系統保存
「滋賀の水産業強靱化プラン」推進研究	「少数でも精鋭の」儲かる漁業「」実現のための調査・研究・普及に取り組む。 ○主要魚種の資源評価 ○効率的な漁具・漁法の研究・普及 ○水産物の利用にかかる研究・普及
増養殖技術研究	重要魚種の増殖技術や養殖技術の開発を行う。
漁況予報調査研究	琵琶湖のアユの資源水準を的確に把握するための産卵調査やヒウオ曳調査等と実施するとともに、その情報提供を行う。
漁場環境調査研究	琵琶湖の漁場環境を把握するための定点定期調査やプランクトンの異常発生、異常斃死事故等の調査を行う。
特産マス類を用いた河川利用の高度化と優良種苗化研究	本県特有のマス類の漁業と養殖業の振興を図るため、在来マス類資源の増殖に資する研究を行う。 ○特産マス類の放流方法および保全に関する研究 ○特産マス類の優良種苗化研究 ○溪流マス類の資源回復技術に関する研究
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業（効果調査）＊	赤野井湾を含む南湖水域で行われる水草除去や外来魚駆除、種苗放流による水産資源の回復、漁場の再生事業の効果を把握する。 ○赤野井湾での漁獲と再生産状況把握による有効性評価 ○赤野井湾での真珠母貝生産効果調査
多様で豊かな湖づくり推進事業＊	産卵回復したニゴロブナの産卵生態の把握と再生産回復技術の開発を行う。また、資源水準が低下しているセタシジミの種苗生産を行い、漁場に放流する。 ○ニゴロブナ再生産回復調査研究 ○セタシジミ資源回復対策の検討（種苗生産放流） ○セタシジミ資源の持続的管理に関する総合的研究

＊：本課予算